



ロータリー：
変化をもたらす

宇都宮ロータリークラブ会報

RIテーマ「ロータリー：変化をもたらす」

宇都宮ロータリーテーマ「一歩前に進みましょう」

第2550地区ガバナーテーマ「チャレンジ&イノベーション」

～挑戦と変革で切り拓く、第2550地区の未来～

2017～2018年度RI会長イアンH. S. ライスリー 宇都宮会長 印出井敏英

第2550地区ガバナー 太城敏之 幹事 飯村 悟

例会日 火曜日12:30 会場 宇都宮東武ホテルグランデ 宇都宮市本町5-12

事務所 宇都宮市江野町1-12 榎木実業ビル2階 TEL 028-666-0555

E-mail u-rc01@silver.plala.or.jp FAX 028-666-0333

(2017)平成29年12月12日 No. 3225回 2017～2018年度(第21回会報)
会員数105名 出席会員72名 出席率73.5% MU会員 矢嶋昭司会員 (宇都宮西RC)
前回修正率71.9%

出席委員長谷川委員長

-出席委員会・長谷川委員長

それでは11月入会の出席者を発表させていただきます。

佐藤行正様、在籍年数25年。

青木栄久様、在籍年数14年。

三原 靖様、在籍年数8年。

新井将能様、在籍年数4年。

太田 周様、在籍年数4年。

以上でございます。おめでとうございます。

報告事項

本日、ご入会の方がおられますので、推薦者よりご紹介をお願いいたします。

みなさん、こんにちは。副幹事の旭野です。

本日入会の山本サンタさんのご紹介をさせていただきます。

1970年8月2日生まれの47歳です。推薦者は私と佐々木会員です。

宇都宮ロータリークラブのメンバーの中では、毛塚会員や関口快太郎会員や渡遇幸雄会員方ももともとのお友達だそうです。

お住まいは戸祭にある宇都宮プラザで、職業分類は内装仕上げ工事業になります。

会社は東宝木の方にあり、株式会社サンタハウスという会社名になります。

山本ヤスコ様という奥様と男のお子さんが3人いらっしゃいます。

山本サンタさんはスリランカ出身で、1999年に来日されまして、不動産業をやられております。永住権も保持されておりました。

2016年、昨年ですかね、日本人に帰化しまして、今は日本人として山本サンタという名前で仕事をされております。

では、自己紹介の方、お願いいたします。

山本サンタ



こんにちは。

名前は山本サンタといいます。みなさん、覚えやすい名前だと思います。よろしくお願いします。

仕事は、不動産業をやってまして、今までは個人でボランティア活動を色々やってきました。

旭日さんから素晴らしい歴史ある会があるということで、宇都宮ロータリークラブのお話を聞かせていただきまして、このような素晴らしい会があったら、参加しようかと**思い**、参加することに決めました。まだまだ未熟者ですが、皆さんの役に立てるような人材になれるように努力していきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

幹事報告飯村幹事

こんにちは。

今年も残すところ来週のクリスマスパーティーだけです。

先週と今週に渡りまして、ご協力いただきましたNHKさんの歳末助け合い運動の募金であります。今日、明賀委員長お休みなので、仰せつかっております。私の方からお預かりしました金額、8万6千円でありました。先週が6万9千円、今週が1万7千円。

8万6千円に1万4千円クラブのお金を入れさせていただきます、10万円にしてNHKさんの方にお渡し**します**。これから会長から**お渡し**いただきます。そのご報告です。

それとあと、**矢治委員長からもあるかも分からないですが、来週の例会は、6時半**ですので、お間違えないようにお願いします。

再来週26日はお休み、1月2日の火曜日もお休みです。

1月9日、理事の皆様は11時半から理事会。例会は例年通り12時半から、通常通り12時半から13時半、この会場です。

16時半からクラブ協議会。各委員長の皆様、理事の皆様、役員の皆様は、報告書をお持ちになって、ご自分で書かれた委員会の活動目標とか書いてある報告書をお持ちになって、クラブ協議会にご参加下さい。

16時半からうおのぶです。

それが終わりますして、新年会が6時から8時まで例年通りうおのぶさん**にて行います**。

来週はクリスマスになってしまいますから、ちょっとなかなか報告しづらいかなと思って、今日報告させていただきました。

ニコニコボックス委員会菊池委員



こんにちは。ニコニコボックス委員の菊池です。

本日のご奉仕発表。

プログラム委員会松本委員長



皆様こんにちは。

本日は会員卓話でございます。

12月は疾病予防治療返還ということもございまして、本日はですね、JCHO宇都宮病院 院長、自治医科大学名誉教授の草野 英二さまに、「生活習慣病と健康寿命～人生100年時代を迎えて～」と題してお話を頂戴いたします。

皆様よくご存知だと思いますが、ご本人からプロフィールをいただいておりますので、簡単に紹介させていただきます。

草野 英二さま、ご出身が福島県でいらっしゃいます。昭和45年に東北大学をお出になりまして、その後北里大学、自治医科大学、アメリカのメーヨークリニックに留学され、平成14年に自治医科大学に戻られて、そこから25年には宇都宮社会病院、26年からJCHO宇都宮病院、そして27年から自治医科大学名誉教授というような簡単に略歴のご紹介でございます。

今はですね、あの数々の所属の学会ございますけれども、日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会等々に所属され、役職としては栃木県病院協会の常務理事、栃木県透析会の理事、栃木県透析医会の幹事等々お務めになられていらっしゃいます。著書もたくさんございますので、興味のある方は「腎臓病から見えた老化の秘密」とか「腎臓病は体内浄化すればよくなっていく」など著書もございますので、ご興味のある方お買い求めください。それでは草野先生、よろしく願いいたします。

草野会員



みなさんどうもこんにちは。

私は卓話を藤井会長の頃に一回やらせていただいて、おそらく3年ほど前だったんじゃないかと思うんですが、今回は2回目ということで、最初は結構緊張してたんですが、2回目ということで少し緊張の度合いは弱いんですけども、何か知ってる人の前で仰々しく話すのは大変だなと思います。

今日はタイトルが示す通りに、「人生100年時代を迎えて」ということなんですけど、まあ我々ぐらいの世代になると結構喪中のハガキをいっぱいいただきまして、年齢を見てみると、僕ももう20通くらいいただいたんですが、2、3の例外を除いて、80代の後半ぐらいから90代、90代で亡くなったという自分のお父さんお母さん、ないしは義理のお父さんお母さんだとかが亡くなったということで、まあ本当に100年時代が近くなってきたんだなという感じをしております。今日はそのあたりのことをですね、生活習慣と健康というタイトルでお話をしていきたいというふうに考えています。

こちらで少し操作しながら。

これはもちろん皆さんご存知ですよ。千円札。この人物はご存知でしょうか。だいたい皆さんここにいる人は知ってるんだと思うんですが、若い世代の人はもう知らないと思います。

個人的には私は、こちらの方が好きなんですけど。

野口英世博士ということで、野口さんが実は福島県出身なんです。

まあ、ご存知だと思うんですけども、猪苗代町出身で、猪苗代町ってこちらの地図で真ん中ちょっと上の方、猪苗代湖の上の方にあります。

実は私も福島県の矢吹町っていうところで、郡山と白川、若干白川寄りのところなんですけれども、その町出身で、実は野口英世にだいぶ影響を受けまして、医者を目指した一番大きいモチベーションは野口英世だったんですね。まあ猪苗代と矢吹ってそんなに遠くないんで、だいぶ影響力なんかという風にでも。

矢吹っていうのは、DeNAの中畑清さんがいますけれども、彼の家と僕の家から200~300mしか離れてませんで、お姉さんが同級生なんです。なので、彼の行状はいっぱい知ってますね。今NHKのファミリーヒストリーなんかに出ちゃってますけども、えー、そんな人かな？という風に…思ってるんですが、僕の町って大したものはないんですけども、けっこう遺跡が多いんですね。三十三観音磨崖仏群といういいものがあるなという風に思っていました。

矢吹っていう地名の由来なんですけど、これは八幡太郎義家が後三年の役の後、勝利して遠くから戻ってくるんですけど、その時に今この矢吹の地に、その時はまだ矢吹という命名はなかったんですけども、ヤシロを作ってそれで矢(柄)で(屋根を)葺いたというところから矢吹っていう風に定めたというふうに考えられています。

これは野口英世の猪苗代町に行きますと、野口記念館として生家が残りまして、野口英世って一歳になる時に左手を火傷してるんですよ。囲炉裏の中に手を入れちゃって、母親が畑で仕事をやってる最中に、この囲炉裏に落ちてその火傷したと。その後、火傷の跡がケロイド状になりまして、なんでまああんまり手指が効かなくなっちゃったと。で、ちっちゃい子供っていつの時代も悪ガキが多いんで、やっぱりいじめられたんだそうですね。それがきっかけで、医者になろうという風に言われております。

で、野口英世は、明治9年に猪苗代町で生まれまして、その後ですね、済生学舎、現在の日本医科大学、天谷先生おそらく大先輩だと思うんですけど、済生学舎を出られて、それでフィラデルフィアにあるペンシルバニア大学に苦学して留学してるんですね。そのあとロックフェラー研究所、これはニューヨークにありまして、まあどういう研究をやられてたのかなと見ますと、梅毒の研究だとかですね。今でいうと、あんまりいい研究やってないなって僕は思うんですけども、梅毒の研究だかをやったらしいですね。チアドックだとかですね。これはよくあんまり知られてないと思うんですけど、ノーベル医学賞の候補にも3度ほど上がってるんですよ。だけど全て落ちた。業績があんまり良くなかったのだからよく分かりませんが。

そういったことがちょっとアンラッキーだったと思います。最後はですね、アフリカのガーナ、チョコレートの有名なところなんですけれども、あそこのアクアっていう首都で亡くなり、51歳でした。黄熱病の研究をやってまして、自分が黄熱病にかかっちゃったというようなことで。黄熱病って、やっぱりウイルス性疾患ですので、その当時はやっぱりなかなか治療はできなかったんじゃないかという風に考えられます。

私はというと、そういったことで野口英世の影響が強くて、だいたい小学校4年ぐらいの時に医者になろうと。

僕の親は、全然医者とは関係ないものですから、2代目ではないんですけども、ことにあのガンが命取りだと。

私の父もなにを隠そうとガンノイローゼになったことがありまして、最終的には東大病院に行ったんですね。「おじさん、あんたの病気、ガンじゃないよ」と言われて、即治ってしまったという、経緯がございます。

医者になったら是非アメリカに行きたいということで、先ほども松本委員長の方から紹介がありましたように、僕は北里で研修してから自治医大に行きまして、自治医大できて医者になって7年目が終わったところで、ミネソタ州のメイヨークリニックというところに入りました。

メイヨークリニック、他で書いてありますけれども、ここはけっこう大きいんですね。ミネソタ州というのは、225,200 km²で、日本が378,000 km²ですので、大体60%ぐらいの大きさのところに、人口500万人しか住んでないですよ。

日本は1億2500万ということで、4%ぐらいしか住んでないんですから。

アメリカに僕が留学した時に、日本から20家族ぐらい行ってまして、この辺りに住みたいねっていうことを好きに話した記憶がございます。

ご存知のようにミネソタ州の州都はミネアポリスというところですね。セントポールミネアポリス。ツインシティというところなんですけど、僕らのメイヨークリニックのある街というのには南に100キロぐらい降ったところがありまして、メイヨークリニックの全景なんですけれども、ロナルド・レーガンだとか、あとはモハメド・アリが入院したり、治療したところですよ。

けっこう神経系が強いんですね。

大塚先生の同級生の丸田先生という先生、精神科の先生なんですけど、慶應から来た先生で、若くして四十歳ぐらいで教授になりまして、すごい先生いるんだなと思います。メイヨークリニックはちなみに全米でもおそらく五本の指に入るいい病院ですよ。間違いなく。まあ、私がいい医者だって言ってるわけじゃないんで。

冬場はですね、シルバーレイクというところで、ときおり鴨が来てるもんですから、すごい数の鴨なんですよ。

マイナス20℃とかマイナス30℃とかになるもんですから、ものすごく極寒の地で、あんまり長く住んでいたいとは思わなかったんですけども。行った当時はですね、ミネソタというのにはミシシッピの源流に近いところで、ミシシッピ側によく外国の方と言うか、アメリカ人と遊びに行きました。

これはガーデンパーティーですね。家内の母親と父親が2週間ぐらい遊びに来まして、こういうパーティーがよくありました。

僕は、ガソリンばらまいて走るような車に乗ってたんですけど、だいぶかっこいいですよ。今もときおり落ち込みそうになった時にはこういう写真を眺めて元気出してますけども。

家族と3人で、今の松本さんのところでお世話になってるあの娘は、アメリカで生まれたんですよ、実は。

卓球を大学時代にやってたもんですから、毎日のように卓球をやってました。メイヨークリニックで2回優勝しまして、ロチェスターという町で一回優勝しましたもんですから、ほとんど何しに行ったのかよくわからないという部分もあるんですけども。

これが僕なんですよ。これはメイヨークリニックの週刊誌に掲載されて、かっこいいこと書いてあるんですよ。Eiji Kusano of Mayo right and route of the table

tennis …なんていうんですかね、タイトルって上の方に書いてありますけれども、まあ結構やっぱりアメリカ人は洒落てるんだなというふうに思いました。

そうはいつでもやっぱり実験がやらないといけないので、まあ僕らは遊びで行ったわけじゃなくって研究で行ったもんですから、まああの、この通り、僕らも髭なんか伸ばしてたんですよ。これ、31歳ですんで。この当時ですね、なんか男が髭を生やさないで行くと、こいつホモじゃないかという風に、言われるらしいんですよ。それで急いで生やしたっていう。

学会でも発表しましたし、あとこれイギリスから来てるブライアンという人とキムさんという韓国から来た研究者も一緒に研究してました。

本題です。

生活習慣病と健康寿命ということなんですが、生活習慣病はみなさんよくご存知だと思うんですが、これ実は、我々が日常色々食べるとか動くとか、寝るとかタバコ吸うとかお酒を飲むとか、そういう生活習慣に関する病気で、まあ今年105歳で亡くなった日野原先生が命名してるんですね。

それでの研究によれば生活習慣病による死亡率って結構高いんですよ。喫煙、タバコ吸ってる人は吸わない人の1.92倍ですから、かなり死亡率が高い。糖尿病、メタボ、コレステロール、こういう感じで非常に高いと。

ただ、逆をいえば、こういうことをきっちりコントロールすれば、比較的生活習慣病にならずに健康長寿を保てるんじゃないかという風に考えられます。

我々の周りには危険がいっぱいあります。これはアランドロンが、1964年ですから、今から53年ぐらい前ですかね、ジェーン・フォンダと一緒にこういう…内容を知ってる方もいるかと思うんですが。実際、我々の周りにはこういった生活習慣病の危険がいっぱいあると。ガンに始まって糖尿病だとか高脂血症、高血圧、あと脳血管疾患、心疾患ですね。こういう病気は、全部生活習慣病といわれています。生活習慣病っていうのは、やっぱり不規則な食事だとか、運動不足、飲み過ぎ、吸い過ぎ、ストレス、こういう生活習慣があまりになってないところに、遺伝的な素因が加わりまして、生活習慣病を発症するわけでありまして。

まああの是非とも生活習慣を改めていきたいという風に考えております。

健康寿命っていうのは、どういうことかと言いますと、日本人の平均寿命というのはここ1990年ですから、2015年まで25年間に女性ですと、81.9歳から87.5歳。まあ相当増えてるわけですね。6~7年増えた、6年ぐらいですかね、6年弱。

男性の場合も同じように平行移動をしますけれども、大体この男性と女性の寿命の差って6年ぐらいはあるんですよ。まあ男が働き過ぎだという風には思いませんけれども、なんなんでしょうかねその差は。女性の方がストレスが弱いのかどうかよく分かりませんが、何れにしてもこういう差があります。

女性のランク一番でもないんですよ。みなさんご存知でしょうけれども香港が一番で二番目が日本。男性の場合もですね、80.79歳で日本は4番目ということで、オーバーオールには日本が男女ともに一番に近いんじゃないかという風に言われておりますけれども、まあここ25年の間に女性は5.2歳ですかね、男性の場合は5歳弱、このぐらい寿命が伸びてるということです。

ただ、寿命が伸びればいいのかってことなんです、そうじゃないと思うんですよ。

やっぱり健康寿命、これは要するに日常的に医療だとか介護が必要としないような状況で自立した生活ができる生存期間のことってこと。平均寿命から自立した生活ができない期間を引いたという数が健康寿命なるわけです。ですからまあ寿命が長いってよりか、健康寿命が長いっていわれた方がいいわけですね。

2013年ですから、先ほどのデータと若干違うんですが、男性の場合には平均寿命の実態が80歳で、健康寿命は71.2歳ですかね。ですから9年間ぐらひは介護だとかそういったものが必要だったと考えられるわけですね。女性の場合は86.61で74.2歳ですから、その差12.4歳から若干長いんですよってことなんです。

一番いいのは寿命と健康寿命が全く同じってのがいいんだと思うんです。これPPKって書いてますよ。ご存知ですか。ピンピンコロリです。これDAIGOじゃないですが、PPKですね。

つい最近野村沙知代さんが亡くなりましたけれど、寿命と健康寿命が一致してた方だと思ってます。朝具合が悪くなって、もう昼過ぎには亡くなったということのようですので、PPKがやっぱりいいんじゃないかというように思います。

それでも健康寿命というのはけっこう伸びとりまして、女性ですとここ13年で2001年から2013年までの間に、1.4年延びてますし、男性の場合はもうちょっと延びてます。1.7年ですね。ですから結構やっぱり確実に寿命は延びているということです。

これはBSフジのプライムニュースだとかNHKのクローズアップ現代で、よく宣伝されてたんですが静岡県が結構健康寿命が長い県なんですね。おそらくお茶がいいんだらうとか気候がいいんだらうとか食材がいいんだらうとか色々言われてますけれども、やっぱりお茶が一番よさそうで、

1杯ぐらいから3杯ぐらい飲みますと、飲んでない人に比べて33%位死亡率が減ると。4杯から6杯、1日にです、50%ぐらい下がって、7杯以上飲むと58%、本当かなと思いますが、私はお茶屋さんではありませんので、お茶の宣伝じゃないのですが、いろいろと言われてます。

確かにカテキンっていうのはポリフェノールなんですよ。こういう色んないい作用があるということで、理解はできるんですが、いずれしても静岡県は非常に健康寿命が長いということで有名です。

あと健康寿命を規定するのは、運動、栄養、社会参加っていう、そういう風に言われておりますけれども、この社会参加は非常に大切だと思います。何もやらない人のリスクを100%としますと、運動だとか栄養に気をつけてる人が32%ぐらい死亡率が下がりますよ。社会参加もすれば、さらにそのリスクが下がるという風に言われています。ということで、ロータリークラブの会参加率は大変重要です。

僕の専門に関係するところで、糖尿病と腎臓病の関係なんです、糖尿病ってあんまり正確にはわかってないんですけど、日本に1,067万人ぐらひいるという風に言われています。世界でも悪い方から6番目。

腎臓が侵されるのは、だいたい15年から20年ぐらひかかるんですが、糖尿病になってからですね、尿蛋白が1日0.5g以上ぐらひ出ると、糖尿病性腎症という範疇の病気になってくるわけですが、そういう患者さんは80万人ぐらひいるんですよ。

腎機能が悪くなってくるとですね、クレアチニンという物質は普通は1以下ぐらいなんですけれども、腎臓のろ過の血液をきれいにする能力が普通でしたら100ぐらいありますので3割を切ってくるような人たちで、全国に5万人ぐらいいて、それで透析に入ると。年に1万5千人入りますので、すごい数になるんです。ご存知でしょうけれども、全国に32万人、透析の患者さんがいまして、4割ぐらいは糖尿病から腎不全になったということなんですね。

糖尿病というのみなさんどういうふうに理解しているのかわかりませんが、いずれにしても血管の病気なんですよ。最終的には。脳血管障害が、糖尿病のない人に比べて3倍から6倍。脳梗塞だとか脳出血だとかですね。そういう病気が相当頻度が高いですし、狭心症だとか心筋梗塞が2倍から4倍。あと、神経障害で、あと末梢血管の障害で足を切っちゃうっていうような方もいるんですが、その第1位ですし、失明の第1位ですし、あと透析導入の第1位の原因疾患だということです。

ですから、血管が障害されるという病気ですので、長らく患っているとですね、なかなかそういう血管障害がコントロールできなくなって、もちろんコントロールがよければ、その限りでもないわけですけど、まあそういうことですね。

じゃあ、健康寿命を延ばすには、どうしたらいいんだろうということなんですけど、これは平均寿命の推移ということで、今2017年ですので、2050年には女性の平均寿命は90歳を超えるということなんですね、90.2歳。これ試算ですけど。男性は84歳弱と。ですから、今から30年後にはこのくらいになると。同級会を開くと、半分は90歳を超えてるということですから、すごい長生きだと思うんですよ、まあ元気で歩いて来られればですけどね。

人生100年時代も夢ではない。おそらく後10年もするとですね、原発性のガンだけではなくて、転移性のガンでも克服できそうだという話はいっぱい聞いていると思います。

あと脳卒中や心筋梗塞でも死なないし、死ねないんです。

あとは認知症もだいぶターゲットが分かってきてまして、いろいろ治療戦略も整ってきてるんじゃないでしょうか。

これは東大の工学部の教授で、片岡先生というんですが、この先生に宇都宮に一回来ていただいて、お話を伺いました。

こういう高分子の糸に先端部分に抗がん剤をくっつけるんですね。水に溶けないような部分に抗がん剤をつけて、こちらの親水性というんですか、こういう糸を作っているだけ合わせると、こういう高分子ミセルができて、真ん中の部分に抗がん剤がみんな集まって、外側は水に溶けると。

この直径をコントロールできるらしいですね。この本数を調整すれば、こういう調節が可能なのですが、この高分子ミセルというのは、ナノカプセルっていう風に呼ばれてまして、普通は抗がん剤を投与すると毛細血管から漏れちゃうんですね。

そうすると正常の細胞を痛めちゃうのですけれども、がん細胞の毛細血管でけっこう穴が大きいんです。ですから、こういう高分子ミセルで、例えば50ナノメートルぐらいのもの、そのぐらいのサイズに作ってあげると、癌細胞にだけ取り込まれて正常細胞には入っていかない。

これももう実証にもそろそろ使えそうだという事なんです。

この先生はノーベル賞候補にも上がってたりしてるんですが、なかなかそういう風にはすんなりとはいかないようですけれども、例えば、膵臓癌のモデルマウスにですね、これは普通のマウスに膵臓癌の元を注射してあげますと、だいたい8週間もすると、全身に転移を起こして亡くなるのですね。普通の癌抗がん剤で治療すると、やっぱり亡くなる。

ところがこの高分子ミセルで治療すると癌細胞の膵臓にだけ留まっています、特に悪さもしない、要するに効いてるという事ですね。

こういったことから臨床用に近いとされています。

あと最近、オポジウムと聞いたことあると思うんですが、これは森さんが、森元首相が治療を受けてだいぶよくなったということで、京都大学本庄先生という先生が発見しまして、これもノーベル賞候補なんですよね。

普通はガンの免疫療法って、免疫細胞が癌をやっつけることになるんですが、がん細胞もおりこうさんですね、やっつけようとすると、その邪魔をするようなものを出すんですね。癌細胞が。

それに対する抗体を作ってあげると、それがオポジウムなんですが、これが一時期ですね、去年ぐらいまでは、年間3500万ぐらいかかるということで非常に悪評だったんですけれども、厚労省のおかげでだいぶ値段下げまして、だいぶ安くなってるんですけども。

いずれにしてもこれはこういうことで、ここの握手をやめさせると、要するに免疫細胞がガン細胞をやっつけるというようなそういうスキームになるという風に言われています。

心筋梗塞の後のステント治療ということで、善林さんもこれ受けたんじゃないですかね、確かステント。

今までは冠動脈にカテーテルを入れて、風船を膨らませて、血栓を取るだけだったんですけど、最近ではバネ付きのこういうステントを入れると、かなり広がるんですね。それで、薬もそういったところに入ってまして、血液が固まらないようにしたりとか、そういうものが開発されておりました、非常にいいデバイスができてきております。

あと天皇陛下の場合には、ちょっと難しかったので、天野先生という非常にハイテクニックの先生がバイパス手術をやったということは、数年前にだいぶ話題になったというところですよ。

あと脳梗塞なんですが、脳の血管に血栓が詰まって、tPAを注入しますと、血栓が溶けて、サイソツをします。要するに片麻痺だとか麻痺起こさないようにですね。

これは血液の塊が硬くなる前に、こういう治療法をやるといいということがいわれています。長島さんの場合には、自宅で倒れて、6~7時間経ってから、おそらく見つかったみたいなんですよね。主治医は助手の内山先生、僕もよく知っている親しい方なんですけど、メイヨークリニックに行っていた時に、全く同じ時期に行っていた方なんです、彼からよく状況は聞きました。

さらに最近では、脳血栓の回収デバイスということで、こういう血栓をステントを開いて取っちゃおうという。これがうまいのはやはり日本医大の先生で、救命救急かなんかにいらっしやったりとか、虎ノ門病院でうまい先生がいるというので、脳血栓にな

るときには是非ともその近くで、倒れられた方がいいかもしれません。まだちょっと国内未承認ってということなので、そのうちおおっぴらに出てくると思います。

あと認知症のですね、まあこれはアルツハイマーだけちょっと解説させていただきますと、今、抗結核薬が効くことが分かったんですね。まあこれは経験的なものだと思いますが、もう本当に安い薬なんです。機序はあまりよく分かってないんですけども、

リファンピシンが効くとかですね。最近ではアミロイドβという物質が脳に溜まって、神経細胞に沈着するというだけじゃなくって、このホモシステインというのが原因じゃないかっていうことで、あの高ホモシステイン酸の物質をとるといいんだよというような話があります。ここにも緑茶が出てきますので、何れにしてもお茶は悪くなさそうです。

これもいいです。これもいいです。我田引水になっちゃいますので。

ということで、時間が来ましたので終わらせていただきます。

年末年始、これからロータリーの会員の皆様もお酒を飲んだり色々する機会が多いと思いますので、あんまり飲み過ぎ、食べ過ぎにはご注意くださいという風に思います。

どうもご静聴ありがとうございました。

今日の食事



- ・シーフードカレー
- ・福神漬
- ・サラダ

会報委員 加藤 雅敏

写 真 小林 健二